

日本手術
医学会

手術医療の実践ガイドライン（改定第三版）

- 周術期のチーム医療において、薬剤師による手術患者の薬学的管理の重要性の認識が拡大している。手術患者の既往歴や内服歴についての評価を行い、薬剤の術前休止または継続に関する積極的な処方提案、周術期使用薬剤の薬学的管理の実施、副作用モニタリング、プロトコルに基づく薬剤の変更、休止薬再開に関する助言など、周術期患者に医薬品が使用される全ての場面において薬剤師が関与していくことが望まれる。

日本麻酔科
学会

周術期管理チーム
薬剤師業務モデル

- 術前：薬歴聴取、休薬指導、アレルギー・副作用歴の確認、術中使用薬剤の準備・確認
- 術中：麻酔薬準備、麻酔薬使用量チェック、PCA（Patient Controlled Analgesia：自己調節鎮痛）ポンプ・薬液準備
- 術後：術後の薬物管理・提案、PCAポンプ管理

日本麻酔科
学会

周術期管理チーム
導入済み施設のメリット（薬剤師）

- 術前に中止が必要な薬剤を事前に確認し、適切な休薬を提案
- アレルギー・副作用歴を事前に確認することで、術中使用薬剤（抗菌薬等）の処方変更などを提案
- 手術部スタッフへの医薬品の情報を提供することで、医薬品の適正使用に貢献
- 術後の疼痛コントロールの評価やオピオイド等による副作用のモニタリング